令和7年度

市立大森病院の方針書

組織名	市立大森病院
所属長名	事務局長　備前　寿

1. 組織の使命（ありたい姿）

〇「地域包括ケア」を支える病院として、保健（予防）・医療・福祉・介護が一体となった医療サービスを提供し、地域住民の健康の保持増進と地域づくりに貢献する。
〇安全で安心な医療の提供と健全で安定した経営の確保に努めるとともに、地域住民に信頼され、魅力ある病院づくりを推進する。

2. 組織の抱える課題（現状）

〇健全経営の確保（収益確保と経費削減）
〇地域の医療連携体制の強化
〇人材確保と育成

3. 今年度の『スローガン』

立ち止まらずに真剣に「一歩前へ」踏み出しましょう！

4. 今年度の方針

・健全経営に向けた取り組みの強化を図る
・地域密着型病院として「治し」「支え」「寄り添う」医療提供体制を構築する
・病院があり続けるために次代を担う人材の確保と組織力強化を図る

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	健全経営に向けた取り組みの強化
	取組内容	・地域医療連携推進法人の模索 ・ふるさと納税、ｸﾗｳﾄﾞﾌｧﾝﾃﾞｨﾝｸﾞを活用した財源確保 ・公立病院経営強化プランの点検、評価の実施（経営コンサルタントによる支援） ・2026診療報酬改定への対応
(2)	実現したい成果	地域密着型病院として「治し」「支え」「寄り添う」医療の提供
	取組内容	・医療介護連携と地域連携強化で地域完結型医療提供体制の構築 ・健診・人間ドック、保健指導等予防事業の充実 ・新興感染症や災害等に対応できる体制の整備
(3)	実現したい成果	次代を担う人材の確保と組織強化
	取組内容	・医療Dxを活用した業務の効率化と負担軽減 ・組織強化の取組み（認定・特定看護師、診療情報管理士など資格取得の奨励、学会参加等） ・横手市病院事業として人材確保、人事交流に向けた体制の整備

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

（健全経営の取り組み強化）
・公立病院経営強化プランの点検・評価は2回実施済み。（11月に3回目実施予定）
・電気料金の契約見直し（R7.10～適用）前年比約▲400万（下半期）※老健・保健センター分は別途▲200万
・経営収支前年比+56,732千円改善　※収支は8月末　患者数は9月末現在
入院延患者数23,466人、稼働率85.5％（前年比+4.3％、+2,006人）　外来延患者数34,051人 276.8人/日（前年比+443）
（地域密着型病院としての医療提供）
・一般・特定・生活習慣病健診（前年比+10人　▲610千円）、人間ドック（前年比+6人　+1,970千円）　※8月末
・9/27病院祭・健康の丘おおもり祭実施（中学生ボランティア6名）
（人材確保と組織強化）
・診療情報管理士の資格取得1名
・横手市病院事業として職員募集を実施（3名内定）
・全力横手祭での病院体験コーナー（腹腔鏡手術・AED・お年寄り体験）来場者134名・Dr金　カラオケ大会参加

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

上半期は昨年度に比べ入院患者数、外来患者数ともに増加したことで収支が改善されたが、昨年度病床再編により下半期の一般病床の一人当たり単価が大幅に伸びたこと、併せて病床稼働率が92.9％と高かったため、下半期は病院全体の稼働率を維持することに加え一般病床の稼働率を維持しなければ収益がマイナスに振れることが見込まれる。また、昨年に引き続き人事院勧告のインパクト、物価高騰による材料費、食材など値上げの影響を加味すれば厳しい経営状況となることも考えられる。経費削減に努めるとともに嘱託医・協力医療機関となっている高齢者施設や横手病院・平鹿総合病院などと連携を図りながら患者確保に努めていきたい。
また、小野院長が音頭を取り、横手湯沢地域5病院（雄勝中央・羽後・平鹿・横手・大森）の院長・事務長会議を11月に予定している。この会議では各病院の課題を共有するとともに連携強化に向けた議論が交わされることが期待される。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）